

同朋の会基礎講座（全6回）

様々な人々が交流するお寺において、一カ寺一同朋の会の結成と充実、さらには同朋の会を推進することを目的に「6つの課題」をもとに講座を連続して開催していきます。

④同朋の会からの家族の回復 —真宗カウンセリングに学ぶ—

日時 2016年3月25日（金）13時30分～17時

講師 譲西賢氏（岐阜聖徳学園大学教授）



お寺で聞いたことを家に帰って実践し、お内仏と共に仏法が相続されてきた歴史があります。それは、お寺での聴聞が家庭づくり、社会づくりにつながっていたとも言えるでしょう。

「同朋の会」はお寺だけのものという考えではなく、家に帰った後の「家族の回復」までを考えた広い視野で「真宗カウンセリング」に学びたいと思います。

⑤現代の苦悩に学ぶ

日時 2016年4月22日（金）13時～17時

講師 高柳正裕氏（元教学研究所属員）

「同朋の会」という集いは、人間が「宗教を求める」「宗教に求めるもの」を抜きに考えることはできない。新新宗教を求めずにはおれない動機や、その背景にある現代人の苦悩があります。新新宗教の性格、新宗教から新新宗教への変化から、現代の苦悩がどのようなものなのかを考えていきたいと思います。

⑥グリーンケアに学ぶ 日時・講師 未定

主催 真宗大谷派 岡崎教区教化委員会

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町1-1-2 岡崎教区会館

TEL0564-22-2136 <http://www.okazaki-kyoku.net/>

真宗基礎講座

仏教基礎講座
親鸞基礎講座
同朋の会基礎講座

今年度も「一カ寺の同朋の会の結成・充実」の支援となるよう、昨年度に引き続き、様々なテーマ（同朋の会・コミュニケーション・同朋会運動・諸課題・仏教基礎・真宗基礎）において実施します。

【会場：岡崎教区会館 参加費：無料】

見つけよう、生まれた意義と
生きる喜び

～生活の中心に南無阿弥陀仏を～

仏教基礎講座（全5回）

仏教基礎講座 『仏教の思想とその歴史的経緯に学ぶ
—仏陀は何故仏教を説いたのか—』

日時 ①2015年10月19日（月） ②12月2日（水）
③2016年1月25日（月） ④3月15日（火）
⑤4月27日（水） 全て18：30～20：00

講師 あさの げんせい 浅野 玄誠 氏（同朋大学前学長）



講師からのメッセージ

仏陀の時代、すでにインドには高度な思想がありました。しかし、こうした思想のどれにも満足されなかったのが釈尊でした。『観無量寿経』において、韋提希が「閻浮提濁悪世を染わず」と評された閻浮提は、「地獄・餓鬼・畜生盈満し、不善の繁多し」世界です。実は釈尊の願いも虚しく、わたしたちは地獄を広め、餓鬼界を深め、畜生を増やそうとしているのではないのでしょうか。釈尊の時代を振り返りながら、そうしたことに想いを巡らしてみたいと思います。

受講者のつぶやき

- 日々の生活の中では、なかなかインド哲学や初期仏教を学術的に学ぶ機会がなく、このような講座は貴重であると感じました。
- 知識にとらわれた話でないところがよかった。聞き取り易く、大事なところはさらにはっきり言ってもらえた。
- 仏教の基礎の基礎の部分でインドの思想や習慣、関連する言葉を引きながら、また真宗の学びとも繋がる形でお話いただいて、個人的に今まで聞いてきた仏教基礎の講義とは良い意味で違う印象を持ちました。

親鸞基礎講座（全5回）

親鸞基礎講座 『宗祖の生涯に学ぶ』

日時 ①2016年1月14日（木） ②2月1日（月）
③3月1日（火） ④4月13日（水）
⑤5月13日（金） 全て18：30～20：00

講師 あんどう わたる 安藤 弥 氏（同朋大学准教授）



講師からのメッセージ

真宗の基礎を学び直すとすれば、まず宗祖親鸞聖人のご生涯（1173-1262）の歩みを確かめ直し、宗祖がどのような人間的課題と向き合って、生きるよりどころとなる教え、浄土真宗の教えに出遇われたのかということについて、問いかけ、学んでいくことが重要だと思います。この問いかけを通じて、私自身が人間としてどのような課題とともに生きていくのか。そのことをご参加の皆さんとともに考えてみたいと思います。

受講者のつぶやき

- 人間は色々な苦しさに遇う。その時ともに語り合える人、教えに遇って自己を知り心豊かに前進する生活を歩みたい。自力、他力を根（もと）として本願に帰したいと思いました。
- 私は聞法を始めて1年くらい経ちました。親鸞聖人についてはコーラスの歌や報恩講の時に絵巻物で琵琶を弾いて語られるのを聞いてきました。しかし、時代は京都や親鸞聖人の人間味のあるところなど特に何も考えず聞き流していました。先生のお話を聞き、少しですが身の中に入ってきました。
- 基礎を学ぶことが本当に大切な学びだと思います。そういう意味で今回の講座は、これまで聴いてきた真宗史や親鸞聖人のご生涯を再度確かめる大切な機会となりました。もっと時間をかけてひとつひとつ聴いていきたいと思いました。